

《担当者名》教授 / 高上馬 希重

【概要】

漢方薬には200種類をこえる様々な生薬が用いられている。生薬に含まれる化学物質の特性を理解することは漢方薬利用に不可欠である。本講義では代表的な植物由来生薬成分の生合成メカニズムと作用機序を学習する。

【学修目標】

- ・ 漢方の概要と漢方薬を構成する生薬の作用を説明できる。
- ・ 漢方薬原料となる生薬の主要成分の生合成について説明できる。
- ・ 生薬の供給状況と品質管理について説明できる。

【学修内容】

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
1	漢方と生薬	漢方の概要、処方構成する生薬について説明できる。	高上馬 希重
2	代表的な漢方処方	代表的な漢方処方について説明できる。	高上馬 希重
3	生薬成分の構造と生合成 1	モノテルペノイド、セスキテルペノイドの作用と生合成について説明できる。	高上馬 希重
4	生薬成分の構造と生合成 2	トリテルペノイド、ステロイドサポニンの作用と生合成について説明できる。	高上馬 希重
5	生薬成分の構造と生合成 3	アルカロイドの作用と生合成について説明できる。	高上馬 希重
6	生薬成分の構造と生合成 4	アルカロイドの作用と生合成について説明できる。	高上馬 希重
7	生薬成分の構造と生合成 5	アルカロイドの作用と生合成について説明できる。	高上馬 希重
8	生薬成分の構造と生合成 6	フェニルプロパノイドの作用と生合成について説明できる。	高上馬 希重
9	生薬成分の構造と生合成 7	ポリケチドの作用と生合成について説明できる。	高上馬 希重
10	生薬成分の構造と生合成 8	フラボノイドの作用と生合成について説明できる。	高上馬 希重
11	医薬品としての天然物質	医薬品原料となる天然物質の作用について説明できる。	高上馬 希重
12	医薬品としての天然物質	医薬品原料となる天然物質の作用について説明できる。	高上馬 希重
13	生薬の生産状況	漢方薬原料となる生薬の供給状況について説明できる。	高上馬 希重
14	生薬の品質管理	漢方薬原料となる生薬の品質管理方法について説明できる。	高上馬 希重
15	新たな生薬の開発	高品質な生薬の開発研究について説明できる。	高上馬 希重

【授業実施形態】

面接授業

授業実施形態は、各学部（研究科）、学校の授業実施方針による

【評価方法】

受講態度（50%）とレポートの評価（50%）により成績を評価する。

【教科書】

「新訂生薬学」改訂第9版 木村孟淳、酒井英二、牧野利明 編 南江堂

【参考書】

「現代医療における漢方薬」改訂第3版 日本生薬学会監修 南江堂

【学修の準備】

指定した教科書を事前に読んでおくこと。